



新しい教育映画

社会教育映画

今どきの嫁

五巻



35ミリ 4354呎
16ミリ 1741呎
約 49分

この映画は、たくさんさんの生活記録をもとにして婦人連盟から募金による資金の援助をもうけて、山形の月山を背景に作られたものです。

×

企画 山形県婦人連盟
製作 母と子の桜映画社
脚本演出 村山英治
撮影 中山邦一



A	近所の姑	先	母とめ	父源兵衛	夫源一	兄一郎	その母しず	みさ子
娘	田所千鶴	木下ゆず	島田蝶	石島房太郎	鈴木瑞穂	高杉哲平	於島すず	岸旗江
河崎定子	田所千鶴	木下ゆず	島田蝶	石島房太郎	鈴木瑞穂	高杉哲平	於島すず	岸旗江



農村の朝は早い。まだ、もやのたちこめているうちから、働きはじめる。

庭先で働いていた一郎は、みさ子のあとを追って台所の土間へ入っていった。

「お前、また、ばあさまと喧嘩でもしたのか」

板の間に、地下足袋もぬがずに、おおむけに寝そべっているみさ子の目じりから涙がこぼれるのを、母親しずはいとしげに見やっていた。

ありがちな嫁と姑の問題ながら、みさ子は忍耐のぎりぎりまで行ってしまうように思えて、川のふちや鉄道線路のそばに長いことたたずんでいたらしいすえに、実家まで放心したように歩き通して来てしまったのだ。

「あんまり騒ぐと近所に知れてうるせえぞ。勝手にとび出したものを、こっちから迎えに行く事はなかんべえ」

母のとめの声を背に、みさ子の夫源一は自転車を引き出していった。途中、仲人に立ってくれた先生をたずねた源一は、やがてみさ子の実家の炬ばたに先生とならんでかしまっていた。

「両方のいい分、聞かしてもらうべ、そのつまり、おれは裁判官だな」

わざと、気軽に笑う先生が「いったい、何したんだ」と聞くのに答えるみさ子の口は重かったが、やがて屈託のなかった娘時代の思い出から、口がほぐれていった。

その当時、おたがいに気楽な若者同志の集まりの気焔のはしから、源一とみさ子が好き合っているという噂が立った。もうそれだけで十分だったのだ。仲人が往来し、母と兄の身をけずるような苦勞が作ってくれたかずかずの嫁入道具とともに、みさ子は嫁入りした。その祝いの夜、あつまった近所の姑連中に

「うちの嫁で」と引き合わせてくれた姑のとめは、顔中人のいい笑いでいっぱいになっていた。

みさ子は、くらしをすこしでもよくしようと努力した。便利のように、働きよいように、百姓の生活も向上していくようにしようと、みさ子はいろいろと心がけた。しかし、姑からは「ハイカラな嫁もらってよ、いろいろとおそわるわ」という皮肉が帰って来るだけだ。若いみさ子のもっと生活をよくしようという気持と、革新をきらう封建制にかこまれている姑の気持とは、あせるほど通じなかった。それに、源一には、みさ子の努力も、苦境も身にしみて同情することが出来なかった。若い夫には理解しきれなかったのだ。

「しかし、みさ子、源一と別れて、お前しあわせになれるのか」先生のこともみさ子はだまっていた。そのみさ子が、娘時代の友だちに暖かいたわられた時、「おら、まちがってた」と源一の胸に泣いて顔をふせた。つらいからといって、逃げて来たらそれは負けた。「こんどは、おらもしっかりやる」源一はみさ子をしかり抱いていった。



株式会社 教育映画配給社

本社 東京都中央区銀座西六ノ三朝日ビル
電話 銀座 1793・4559・0597 番

関西支社	大阪市北区中之島朝日ビル 電話 (23) 7912 番	九州支社	福岡市上呉服町二三日新会館 電話 東 (3) 2316 番
北海道支社	札幌市北二条西三丁目三階 電話 (3) 2502 番	中部支社	名古屋市中村区堀内町四ノ一 毎日名古屋会館 電話 5778 番

